



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I II III V 】
2 実施対象者	学校名 香取市立佐原第五中学校 対象学年 全学年 人数 204名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間・道徳・保健体育） ② 行事名（体育祭・人権集会・JOCオリンピック教室・文化祭） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（香取市国際交流事業） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	次世代を担う子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさを味わわせたり、ボランティア精神を身につけさせたり、障がい者スポーツへの理解等を深めさせる。
5 取組内容	<p>(1)オリンピック・パラリンピック教育推進校としての意識づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関に旗、廊下に掲示物コーナーを設置してオリンピック・パラリンピックへの意識の高揚を図った。</li> </ul>  <p>(2)学校図書の充実(オリンピック・パラリンピック関連コーナーの設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間との関連でオリンピック・パラリンピックを調べるコーナーを設置した。</li> </ul>  <p>(3)遊・友スポーツランキングへの積極的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊・友スポーツランキングのコーナーを設置したり、昼休みにお</li> </ul>

いて時間を設定して取り組んだり、体育祭におけるクラス対抗大縄跳びを実施した。



#### (4) 自主的な体育祭への取組

- ・全学年から選出された応援係が体育祭実行委員となり、生徒主体の体育祭を推進した。



#### (5) 道徳教育における取組

- ・道徳の授業では、オリンピック選手やパラリンピック選手の話を題材にするなど、オリパラ教育の推進を図った。話し合いを中心に活発に取り組んだ。自分の意見を主張したり、お互いの考えを理解しようとしたりする姿が見られた。



#### (6) 総合的な学習における取組

- ・総合的な学習の時間では、3年間で各自テーマを決めて取り組み、2年次の中間発表を経て、3年次にはパワーポイントで発表した。

(代表に選出されたグループは文化祭でも発表した)



### (7)国際交流における取組

・香取市では、国際交流事業として中学2年生を対象にオーストラリアで3月に9日間のホームステイを実施している。参加者は、その報告を文化祭で行っている。



### (8)JOCオリンピック教室の様子 9月28日実施

・オリンピックによるオリンピック・ムーブメントの推進に関する講義(卓越・友愛・敬意の3つのオリimpiズムについて)及び実技の授業では、誰もが参加できる内容で協力して取り組めた。

(アトランタオリンピック7位女子バスケットボール 岡里 明美先生)




(ロンドンオリンピック男子フルール団体2位 千田 健太先生)



### (9)「あすチャレ! スクール」の様子 11月2日実施

・講師の根木先生がご自身の体験や夢について話をいただいた。1、3年生と教員によるミニゲームもあり、とても内容の濃い集会になった。

	<p>(シドニーパラリンピック車いすバスケット主将根木慎志先生)</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、オリンピック・パラリンピック教育推進校の指定を受けて、普段の総合的な学習の時間や道徳の時間とも関連づけて行うなど、2020年の東京オリンピックにおける意識付けのきっかけとなった。</li> <li>・実際に「JOCオリンピック教室」や「あすチャレ！」を通じてオリンピック・パラリンピックの元選手と交流ができ、オリンピック・パラリンピックについての興味がよりいっそう高まった。</li> <li>・夢や目標について深く考える機会が与えられて心のレガシーとして残ってよかった。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックにおいて応援や観戦をするだけでなく、ボランティア等で協力したいと考える生徒が増えた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間のテーマとして取り上げられることを勧め、オリンピック・パラリンピックについてまとめたグループが、文化祭で発表することで、広く全校に周知する機会とした。</li> <li>・JOCオリンピック教室において元オリンピック選手に授業を行ってもらうことで、より身近に考える機会とした。</li> <li>・日本パラリンピックサポートセンターの「あすチャレ！」を活用し、パラリンピック元選手との体験や講演を通して、障がい者との共生や自分自身の夢や目標について考える機会とした。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年の東京オリンピックが行われる東京や千葉市とは距離が離れているため、実際の生活とは関係が薄く、機運が高まりにくい。</li> <li>・JOCや日本パラリンピックサポートセンターと協力して行事を行ったが、一過性のものになってしまう恐れがあるので、今後の取組について検討していく必要がある。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、領域（保健体育や道徳、総合的な学習の時間）でも関連づけて取り組んだが、今後はさらに他教科との関連付けを図り、オリンピック・パラリンピック教育推進校として学んだことを浸透させる必要がある。</li> </ul>